令和4年度　小平市立　学園東小学校　学校評価報告書

学校教育目標　　やさしく　元気な　がんばる子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　　笑顔と夢があふれ　コミュニティで育む　学園東　～人にやさしく　自分につよく　元気にがんばる　子どもの育成～

【目指す児童・生徒像】　○やさしい子（思いやりのあるやさしい子）　○元気な子（心も体も元気な子）　○がんばる子（目標をもってがんばる子）

【目指す教員像】　　社会人・教育公務員としての自覚ある態度をとる。子どものよいところを認め、可能性を引き出していく。保護者と連携し地域とのつながりを大切にする。

前年度までの学校経営上の成果と課題

・新たな地域人材を発掘し、コミュニティ・スクールとして地域の教育力の活用をさらに進め、感染症対策をとりながら、どの学年も地域とかかわる学習を充実させる。

・基礎的・基本的な学習内容の定着が不十分な子どもが見られる。個別指導や支援を工夫し、学力分布の底上げを図る。また、ICTを効果的に活用するなど、授業力の向上が課題である。

	具体的方策	第1回評価		成果・課題・対策	第2回評価		学校関係者評価	成果・課題・次年度以降の対策
		取組指標	成果指標		取組指標	成果指標		
学力向上	東京ベーシックドリルを活用し、朝の時間等で取り組ませる。 学年必達目標「学園東小これだけは」を実施する。	4	3.75	成果：忘れている既習事項を学習できるので適切な復習となっている。課題：全合格の児童について、その後の課題の出し方が一致していない。教員間で共有し、朝の時間を使って共通認識する。	4	3.4	・ベーシックドリルは既習事項の確認、復習ができるため、今後も取り組んでもらいたい。 ・継続するためにはやり方の統一や担当の先生を決めるなどきちんとした方がよい。 ・ブックトークも行われているが高学年が低学年に本を紹介するなど色々な角度から取り組んでもらいたい。 ・学習者用端末活用での学習がかなり進んでいるように感じられ将来が楽しみ。 ・子どもたちの学習意欲につながるような効果的活用を期待する。	成果：継続して行うことで、全合格するまでの時間が短くなり、苦手領域へ理解が進んでいる。課題：全合格後の取組への共通認識が曖昧だった。来年は、既習内容のさらなる定着、学び合いの活動など選択判断できるようにする。
	低50冊（5冊）中40冊（3冊）高30冊（1冊）を目標に幅広く読書に取り組ませる。学校の推薦本も選本するよう読書カードを工夫する。	2.7	1.5	成果：目標の冊数を実態に合わせたことで、目標達成の見通しをもてるようになった。課題：推薦本の浸透が不足している。朝読書の時間を確保し、図書委員会や図書館協力員と連携して本に接する機会を増やす。	3.1	2.1		成果：おすすめ本を厳選したことで、読みやすい状況を作り出すことができた。課題：図書館協力員との連携が難しい状況だった。支援員、保護者、委員会との連携をさらに図ることで、多彩な活動につなげることができるようにする。
	授業において積極的にICT機器を活用する。特に学習者用端末を効果的に活用し、主体的で対話的で深い学びを実現するための校内研究を行い、授業改善に取り組む。	3.3	3.6	成果：学習者用端末の効果的な活用について研究し、一定の成果を得た。課題：引き続き授業のどの場面で使うとより効果的なのか考え授業づくりを行っていく。また、OJTで学習者用端末のノウハウを研修する。	3.3	3.7		成果：学習者用端末を活用することで、児童が意欲的に学習に取り組むことができた。学習者用端末の活用に適した場面が明らかになってきた。課題：教科や単元の特性をふまえより効果的に使えるように検討していく必要がある。
体力向上	体育朝会での計画的な取組や休み時間の外遊びの奨励、体育の授業改善を行う。	3.5	2.8	成果：朝会を楽しむ児童が増え、運動への興味を引き出すことができた。課題：体力テストの結果を考慮し、種目の精選をする。コロナ禍で、外遊びの奨励が滞っている。体育委員会と連携し、新たな取り組みをする。	3.5	2.8	・体育朝会を通して、体を動かすことの楽しさを感じるとともに体力向上が図られている。 ・体育朝会や休み時間、放課後の運動時間を少しでも確保したい。	成果：体育朝会を通して、体を動かす楽しさを感じている児童が多くいた。体育委員会として、フラフープ検定を新しく作成した。課題：フラフープ検定の周知や実施方法を検討するとともに、外遊びする企画を計画していく必要がある。
健全育成	挨拶について、生活指導目標や「学園東これだけは」に沿って計画的に指導する。	3.6	3.7	成果：チェックカードの取組や代表委員の挨拶運動に合わせてその意義を考えさせたことで、多くの児童が挨拶をするようになった。課題：挨拶を全くしない児童も一定数いる。今後も粘り強く指導を継続する。	3.6	3.7	・廊下においても挨拶してくれる子どもが増えたように感じる。 ・児童のほうから「こんにちは」と言ってくれる場面も増え、日頃の成果だと言える。 ・いじめに関しては、先生方がよく見てくれ、すぐに対応してくれていると思う。対応の仕方もただ叱るのではなく、上手に話してくれていると感じた。	成果：年3回の生活指導朝会を通して挨拶の実態や意義を伝え、代表委員によるあいさつを認め合う活動により、児童は活発に挨拶を行った。課題：あいさつから発展し、言葉遣いについて、より系統立てた指導が求められる。
	いじめの予防、早期発見、早期対応をする。保護者や関係機関等との連携を深める。	3.8	3.9	成果：いじめ調査やふれあい月間の取組、対応研修を通していじめの状況の把握や早期の対応を行うことができた。課題：より一層いじめ防止の取組を実施し、必要に応じて子ども支援委員会の場を活用していく。	3.8	3.8		成果：毎月のいじめ調査やふれあい月間アンケートを通して、いじめがわかった際にも担任がすぐに報告し、早期対応を行うことができた。課題：子ども支援委員会の場でも情報共有し、より綿密に児童の支援につなげていけるとよい。
学校の基礎作り	各学年で地域と連携した教育活動を実施し、充実させる。	2.6	2.8	成果：低・中学年は学童農園やお仕事体験を中心に連携して経験的な学習を進めることができた。課題：まだ実施していない高学年がある。2学期や3学期を通して、予定しているものを丁寧に実施していく。	3.3	3.3	・コロナ禍でできなかったと体験も今年度はできて良かった。 ・地域の方とのコミュニケーションが必要。コミュニティースクールとしての課題でもある。 ・子ども支援については、各々の児童にあった対応をとるのは難しいと思うが、情報共有して、子どもに寄り添った支援を望む。	成果：コロナ禍で中止となっていた活動を、一つ一つ再開することができ、体験を通し、子どもたちが充実感や満足感を味わうことができた。課題：取組について、再開させるものやそうでないものを精査していき、考える必要がある。
	毎月及び臨時の子ども支援委員会で支援が必要な児童について支援策の検討や確認をし、生活指導夕会等で情報共有をする。	3.3	3	成果：教職員間で情報共有がなされ、組織的に児童を見守ることができている。課題：話合いの対象児童や情報量が多く、共有の方法に課題がある。決定事項やカンファレンスの報告書を夕会で連絡する。	3.7	3.2		成果：子ども支援員会で決定した内容を生活指導夕会で職員に伝え、指導方針を情報共有することができた。課題：次年度は、臨時の子ども支援委員会の実施も検討し、不登校やいじめ事案等も、対応策を検討できるようにする。
業務改善・働き方改革	会議の時間短縮や事務の効率化を行う。	3.3	3	成果：事務の効率化は、SSSの活用が定着して、教員との仕事の分担が進んでいる。課題：会議の時間短縮については、会議時間を有効活用できていないことがあるので、職員会議の内容の精査をしていく。	3.3	3	・SSSが配置されたことは、学校にとって大きな前進だが、それでも現状は仕事が多いと思う。 ・CSでできることがあれば、サポートするので、声をかけてほしい。 ・先生方が、早く帰れるようになっているのは大変良いこと。一方で、急ぎでの連絡先がわからないために対応に悩む。	成果：SSSの配置を利用することで、作業の効率化や帰宅時間を早めることにつながっている。課題：仕事の効率化を図る上で、仕事内容が明確に引き継がれていないものもあり、苦労が多かった。引継ぎ資料を作成し、解決をしていく。
	自分の健康や在校等時間への意識を高め、退勤が遅くならないよう教職員各自が目標をもつ。	3	2.8	成果：事務の効率化も関係して、夜遅くまで在校する教員が減ってきている。課題：在校時間の短縮はできてきているが、各自の目標をもち、さらに達成を目指していく。	3	3		成果：講師の活用による事務処理の時間確保や、SSSでの仕事の負担の軽減で、効率化され帰宅時間が早くなった。課題：職員の目標意識や働き方への意識改革が必要。時間外の連絡先を保護者や地域の方へ周知徹底する。